

大変です。ベッドが足りません。間もなく開院六年目を迎えるに当たって、新規入院患者さんが毎月500名に近づいており、患者さんのためのベッド確保に苦勞しています。

昨年五月に周産期センターが開設されました。しかし病院全体の許可病床数は212床のままであり、新規入院が周産期センターだけでも毎月50人と増えています。当院は「救急を断らない」ことをモットーにしておりますのでベッド運営が困難を極めております。

世の中の多くの病院が「満床」を理由に救急の受け入れを拒否しており、そのことが最近、大問題になっているたらい回しを生んでいます。今年の二月のように感染性胃腸炎やインフルエンザが流行すると脱水症や肺炎などで重症化した患者さんが多く入院されます。当然全国的にベッドが埋まり受け入れを拒否する病院が増えます。当院は「救急を断らない」ことを自ら義務化していますから、違う努力をしなければなりません。すなわち入院が増えるということは、退院を増やさなければならぬということです。

早期退院を目指すにはどうするか。苦勞しながらいろんな方法を模索しながら運営しています。ひとつは早期リハビリです。高齢者は寝込んだ日数の2〜3倍のリハビリが必要と言われる。ですから入院した日から少しずつでもベッド上リハビリを開始し、病状の改善が見られれば積極的に行います。そうすれば原疾患が治ればほぼそのまま帰宅できます。脳卒中や整形疾患などリハビリが長期化すると予測される方は入院時から説明をさせていただき、急性期を脱した状態ではリハビリを主体とする専門病院への転院をお願いしています。以前のように当院だけで完結型を目指しては当院の本来の急性期病院としての役目が果たせなくなりません。

以上のことから職員の教育だけでなく、地域の方の協力が必要です。当院の「急性期病院としての特定機能」を生かすためにもご理解、ご協力をお願いします。

やっと暖かくなり始めました。4月より政府管掌特定健診も始まり、早期発見できるチャンスが広がります。みなさん積極的に受診しましょう。 第34章。